

奈良学園高校敷地内で活動するアライグマ、イノシシの行動調査

—動体検知カメラを使用した獣道の調査—

私立奈良学園高等学校 土井仁太 大江悠生 明石茂之 前田凌佑

【キーワード】動体検知カメラ、アライグマ

1. はじめに

昨年奈良学園敷地内で行われた野生動物の生態調査の結果、アライグマやイノシシなどの野生動物が活動していることが分かった¹⁾。そこで私達は特定外来生物に指定されているアライグマと、生態系への被害が大きいイノシシ²⁾について、生態と行動を校内で調査した。

2. 目的

アライグマ、イノシシの被害への対策をするために、それら2種を昨年の調査に引き続きアライグマとイノシシの生息を確認する。加えて新たに2種の侵入ポイントや行動ルートを調査する。

3. 方法

奈良学園高校敷地内の哺乳類が通っていると思われる地点を選び、動体検知カメラを撮影したい画角に向けて設置した。それを約1週間ごとに回収し、データを収集した。この調査を2021年6月2日から2021年10月16日の期間に、動体検知カメラを8台用いて行った。

4. 結果



図1にアライグマもイノシシも映らなかった地点を■、アライグマが映った地点を■で示した。この結果、アライグマは他のカメラの設置地点に比べポイント1、ポイント2で多く映った。また、ポイント1では柵を登る姿が確認された。一方で、昨年と異なり、今年の調査ではイノシシの姿は確認されなかった。

5. 考察

ポイント1でアライグマが柵を越える様子がされていることから、ポイント1は侵入地点だと考えられる。しかし、敷地内に入る回数と出る回数に大きな違いがあることから他にも侵入地点があると思われる。

ルート1上に設置していたカメラにアライグマが数回映っていたため、ルート1はアライグマの行動ルートなのではないかと推測した。だがルート1は餌の少ない砂地であるため、餌の豊富な地点への移動経路の1つではないかと考えられる。

イノシシについては、柵の増設・修繕により侵入が妨げられたものと考えられる。

6. まとめ

アライグマの行動はポイント1から侵入し、ルート1を通ると推測した。ただ次にアライグマが確認されたポイントまで確認されていない区間があるうえ、確認された回数も少なく、調査期間が異なっていることからさらなる継続的調査が必要と考える。

参考文献

- 1)池田 英寿 (2021) 奈良学園高校敷地内における野生動物の観察とその動向
- 2)奈良県 29年度 有害鳥獣アンケート調査